

台風・大雨に対する警戒レベル伝達ツール・フィリピン語版の作成にあたって

(大阪大学 人間科学未来共生博士課程プログラム特任講師 神田麻衣子)

【ツール作成の背景】

この「台風・大雨に対する警戒レベル伝達ツール・フィリピン語版」は、大阪大学大学院・人間科学研究科「未来共生多言語特定演習」(2019年春～夏学期開講、担当教員：神田麻衣子)の授業成果として作成されました。

「未来共生多言語特定演習」は、受講生が1セメスターでふたつの初修言語(フィリピン語、ベトナム語)を学び、基礎的なコミュニケーションができるようになることを目標としています。本ツール・フィリピン語版は、授業の最終課題としてフィリピン語でのツール作成に臨んだ5名の受講生と、授業アシスタントを務めるフィリピンからの留学生マリフェ・マグタラス(Marife Magtalas)さんが検討を重ねた結果、生み出されたものです。

【伝えるための工夫1：色別警戒システムを参考にした情報発信】

フィリピンの気象庁にあたる、フィリピン大気・地球物理・天文局(The Philippine Atmospheric, Geophysical and Astronomical Services Administration; PAGASA)では、洪水や大雨など、気象に関する警戒レベルの各段階数値を色で示した、色別警戒システム(color-coded advisory system)を採用しています。具体的には、「赤：警戒→避難」のように、色と避難情報・避難行動をワンセットにした情報提供が行われています。

日本の大雨に関する「警戒レベル」も、フィリピンと同様に各警戒レベルを色分けしています。そこで、日本に暮らすフィリピンの人たちに直感的にわかってもらえるように、本ツールのフィリピン語版では、各警戒レベルの色にもとづいた情報発信を試みました(紫：緊急警報→(むやみに動くのは)危険、うす紫：警戒→避難、赤：警戒→警戒)。日本のメディアでは、色を全面に押し出して避難情報を伝えることはありませんが、災害・避難情報を伝えるテレビ画面では、警戒レベルに対応する色が必ず使われています。ことばによる情報伝達が十分でない場合でも、画面上の色とこのツールを組み合わせることで、最低限の避難情報・避難行動を伝えることを意図しています。

【伝えるための工夫2：「何をしなければいけないか」(避難行動)の具体化】

大雨・洪水に関する「警戒レベル」について、気象庁では避難情報や住民がとるべき行動

について、以下のようにまとめています。

警戒レベル	避難情報	住民がとるべき行動
5	災害発生情報	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる
4	避難指示（緊急） 避難勧告	速やかに避難
3	避難準備 高齢者等避難開始	高齢者等は速やかに避難
2		ハザードマップ等で避難行動を確認
1		災害への心構えを高める

（気象庁「防災気象情報の伝え方が変わります」をもとに作成）

しかしながら、たとえば警戒レベル5の「命を守るための最善の行動」とは、具体的にはどういった行動でしょうか。どのような災害が起こるのかがわからないのに、先走って具体的な行動を示すことは、実際の災害時に被災者をかえって危険な状況に追い込むことにもつながりかねず、差し控えるべきなのかもしれません。しかし、警戒レベルを用いた情報の発信は、すべての人が「命を守る」ことを目的として始まったはずです。そうであるならば、抽象的な表現から一步踏み込んだかたちでの情報提供が求められているのではないのでしょうか。そこで本ツールでは、ピクトグラム（アイコン）を併用して、台風・大雨の際に「住民がとるべき行動」を以下のように具体化して記載しました：

警戒レベル5：外に出るのは危険です。高いところ・安全な場所にとどまり、119に電話してください。

警戒レベル4：洪水になる前に避難してください。

警戒レベル3：子ども、高齢者、障害のある人は避難の準備をしてください。

* 避難所：外国人も日本人も、だれもが滞在することができます。

水や食料、必要な情報を得ることができます。

警戒レベル2：非常用持ち出し袋の準備をしてください。

ハザードマップを確認してください。避難の準備をしてください。

警戒レベル1：状況に注意してください。

なお、よりわかりやすく伝えることを目的に、警戒レベルごとに1枚のシートを作成し

ました。台風・大雨の場合は急速に状況が変化するため、平時からの備えが特に重要となります。そこで、警戒レベル1のシートでは、避難所やハザードマップの情報を市町村役所（およびそのウェブサイト）で入手することを促し、警戒レベル2のシートでは、非常用持ち出し袋に準備するおもな物品（パスポート、外国人登録証を含む）について例示しました。

【参考資料・ウェブサイト】

〈フィリピンにおける気象情報の伝達について〉

The Philippine Atmospheric, Geophysical and Astronomical Services Administration (PAGASA) (<http://bagong.pagasa.dost.gov.ph/>)

Official Gazette, “How to make sense of PAGASA’s color-coded rainfall advisories”

(<https://www.officialgazette.gov.ph/how-to-make-sense-of-pagasas-color-coded-warning-signals/>)

—— Official Gazette は、フィリピン政府が発行する官報。PAGASA の色別警報システムについて図を用いて説明しています。

UNTV News and Rescue, “PAGASA Color-coded rainfall Warning”

(https://www.youtube.com/watch?v=H_xvh1iz2uc)

——UNTV は、フィリピンの主要放送局。フィリピンの気象情報における色別警報システム（Color-coded rainfall advisory）について、動画でわかりやすく説明しています（フィリピン語字幕つき）。

〈日本における気象情報の伝達・多言語対応について〉

一般財団法人 自治体国際化協会（クレア）「多言語情報等共通ツールの提供」

(<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/tagengo/saigai.html>)

——クレアは地方自治体の共同組織。このサイトでは、災害時の避難所運営から交通情報など多岐にわたる表現・文例を以下の13言語で提供しています：やさしい日本語、英語、ロシア語、スペイン語、タガログ（フィリピン）語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国・朝鮮語、ベトナム語、ネパール語、インドネシア語、タイ語、ポルトガル語、ミャンマー語。

気象庁「防災気象情報と警戒レベルとの対応について」

(<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/alertlevel.html>)

——本ツールでは、警戒レベルをわかりやすく伝えることを主眼としたため、「台風・大雨」というテーマに単純化してシートを作成しました。しかし、「警戒レベル」は、本来、水害・土砂災害の防災情報を包括的に扱うものです。警戒

レベルについての詳細は、気象庁のこのサイトを参考にしてください。なお、チラシ「防災気象情報の伝え方が変わります ～危険度分布のうす紫は警戒レベル4相当！ 自ら避難の判断を！～」もここでダウンロードが可能です。

気象庁「多言語データ」(<https://www.data.jma.go.jp/developer/multilingual.html>)

——災害が発生した際に必要な情報発信のための多言語表現・文例集。2019年7月31日に、以下の11言語の表現・文例集が公開されました：日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、インドネシア語、ベトナム語、タガログ（フィリピン）語、タイ語、ネパール語。

公益財団法人 かながわ国際交流財団「外国人住民向け防災リーフレット「災害のときの便利ノート」を作成しました」(http://www.kifjp.org/news_tabunka/1897)

——「災害のときの便利ノート」は、避難所についての説明、災害用伝言ダイヤルの使いかたのほか、自分の情報（パスポート番号、アレルギー・病歴、連絡先、近くの避難所）について事前書き込んでおくスペースがあり、平時から災害への意識を持てるよう工夫されています。このサイトから、以下の11言語の「便利ノート」をダウンロードできます：中国語（簡体字）、韓国・朝鮮語、タガログ（フィリピン）語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、英語、タイ語、カンボジア語、ラオス語、ネパール語。

公益財団法人 かながわ国際交流財団「防災多言語情報」(<http://www.kifjp.org/shuppan/multi>)

——このサイトでは、「地震」、「台風・大雨」について、以下の6言語による災害多言語情報シートがダウンロードできます：英語、中国語（簡体字）、スペイン語、ポルトガル語、タガログ（フィリピン）語、ベトナム語。

公益財団法人 横浜市国際交流協会『外国人につたえる広げる多言語情報の作り方～原稿づくりから届けるまでのヒント集』2016.